学校法人イーエスピー学園 専門学校ESPエンタテインメント大阪

2024年度 学校関係者評価報告書

（対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日）

・学校関係者評価の概要

【体制】

本校では音楽、芸能等の設置学科に関連する大阪府内の企業と共に、地域活動団体、卒業生を評価委員とした「学校関係者評価委員会」を組織することとします。

【実施方法】

学校関係者評価委員会では本校職員で組織する自己評価委員会により作成された「自己評価報告書」に基づき、評価項目である学校の運営状況、教育活動状況、学修成果として卒業生の進路の状況等を報告します。学校関係者評価委員会は報告書の内容を受け、客観的な視点から現状を点検・評価します。

【方針】

本校職員以外の学校関係者評価委員会を組織、実施することによって、透明性を高めると共に学校に対しての理解、連携、協力による「改善」を図ることを基本方針とします。

実施日：2025年5月15日(木)

参加者：

【学校関係者評価委員会】

・西田 啓一（株式会社ワイドウィンドウズ スタジオ246グループ 取締役常務）

・田中 克幸（株式会社ビーラインワーク 専務取締役）

・平井 孝明（M＆S 代表）

・東野 仁孝（大阪府高等学校芸術文化連盟 軽音楽部会 副部会長、大阪府立阪南高等学校 軽音楽部顧問）

・井本 微景（THE SKIPPERSベース、Kilbride 代表、本校2期生）

・久谷 秀明（高等学校軽音楽部連盟大阪 連盟長、大阪府立桜塚高等学校 教諭・軽音楽部顧問）

【専門学校ESPエンタテインメント大阪】

・今村 典也（校長）※議事進行

・縄田 一洋（副校長）

・白澤 健 （副校長）

・池田 亨 （教務課 音楽アーティスト科）

・上野 幹夫（教務課 音楽芸能スタッフ科）

・島本 篤 （教務課 声優芸能科）

・石居 裕 （学生支援課）

・牛田 政男（企画広報課）

・小前 圭司（教務課）※書記

■ 2024年度 専門学校ESPエンタテインメント大阪 学校関係者評価報告書 ■

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

大項目	点検・評価項目		自己評価
理念 目的 育成人材像	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
	1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
	1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	4
	1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4

現状分析/総括

・「個性を活かしながら、自立した活動を確立する」ことを最大のテーマとして発信している。
・業界から求められる人物像を育成人材像として捉え、必要とされる専門知識・技術以外にも社会に適合する人物となる「人間力」の養成に注力している。
・関連企業と連携し「超現場主義」という方針を掲げ、業界のニーズに対応した即戦力となる実践的な研修を提供している。
・関連企業やアーティストの協力を得て、業界の前線で働く方たちの特別授業を多数開催した。

課題/目標/その他

・多様化する業界ニーズにや動向に目を向けながら、AIやイマーシブオーディオの導入などを視野に入れたカリキュラム開発を目指す。
・学生が自身の問題や目標を自力で解決・達成できるよう、「セルフ・プロデュース」などのカリキュラムを導入しているが、より幅広く対応できるよう強化に努めていく。
・教育の理念・目的・育成人材像をしっかりと意識し、新たなカリキュラム開発を行うとともに、学生それぞれが自分の個性を伸ばせる教育活動を実践していく。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】近年AIで作詞や作曲ができるようになり、本人が作ったものか判断できない。今後音楽業界はどのようになっていくのか？
⇒【回答/学校】現在AIが作成した著作物に著作権は明確な法整備がないため、創作関連でAIを学校で導入することは今は難しいと感じているが、AI生成したものをアイディアとして活用していく可能性はあると感じている。
また、マスタリングやミックスなどの技術面ではAI導入は進んでおり、かなり精度も高いとのことなので、ツールとして活用できる可能性はある。
・【意見/評価委員】ライブで歌っている声を瞬時にピッチ修正できるようになるのは怖いと感じる。

大項目	点検・評価項目		自己評価
学校運営	2-5	理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4
	2-6	運営方針に沿った事業計画を定めているか	4
	2-7	運営組織や意思決定機能は、規則等により明確化し有効に機能しているか	4
	2-8	人事・給与に関する制度を整備しているか	4
	2-9	情報システム化による業務の効率化が図られているか	4

現状分析/総括

・学校教育法、専修学校設置基準、各種法令、本校の運営方針に基づいて運営している。
・理事会、評議員会は私立学校法に基づいて都度開催され、議事録を作成して保存している。
また、イーエスピー学園4校の定例会議を月に1回開催し、学園内での情報共有を行い、議事録については毎回全職員に周知している。
・2024年度より「学園目標」「大阪校目標」を打ち出し、職員に周知し、業務目標に向かって明確に取り組める体制をスタートさせた。
・2024年度より新しい人事考課制度をスタートさせ、部署目標・個人目標を設定することにより、タスクの管理と業務の達成度の可視化を目指し、より説得力のあるきめ細かい人事考課につなげるように取り組んでいる。
また、新制度においても年3回の考課と、それに伴う全職員との校長面談は変更することなく継続している。
・1年に2回、人事登用制度を実施し、基準を満たした職員の正職員化を促進している。
実績として2024年度は2名が契約社員から正社員に登用。
・学校法人ESP学園規程集として、就業規則、服務規程、賃金規定、定年後再雇用規定、育児/介護休業等に関する規定、確定拠出年金規定、労使協定書等を明確に定めており、職員に周知して適切に運用している。
・新入社員/クルーに対して、適切な部署配置を目指した新人研修・ジョブローテーションを行っている。
・学生/講師連絡用にGoogle ClassroomやWebによるフォームを導入し、証明書発行やレンタル教室の予約などのペーパーレス化を実現している。
・経理処理に「楽楽精算」を導入し、電子帳簿保存法に対応するとともに、ペーパーレス化と業務の効率化を進めた。
・学生情報システムInfo Clipperを活用し、経理・事務・教務・広報・学生支援におけるデータの共有と一元化を行うことで、各部署の連携強化につなげている。

課題/目標/その他

・2027年度の夜間部の再編を検討中。
・夜間部の時間帯に3年目となる「研究科/専攻科」の設置を検討中。
・高度就学支援の制度に則した出席率管理をさらに徹底し、出席率及び進級卒業率の改善に向けた組織的な対策を検討実施していく。
・業務の効率化については、現状システムの見直しや改善に取り組み、さらなる業務効率のアップに努めていく。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】３年目を夜間部の時間帯に設置することにより教室の使用は圧迫されないのか？
⇒【回答/学校】夜間部は教室の空きが多いので圧迫することはない。
他校には3・4年制を導入している学校もあるので、卒業後も引き続き学びたいという意欲のある学生がいるようならば3年制の導入も検討していく。
・【意見/評価委員】大手企業に就職しても１週間で退職するなど、若者の考え方や行動が年々変化していく中で、学校側も大変だと感じる。

大項目	点検・評価項目		自己評価
教育活動	3-10	教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4
	3-11	学科毎に修業年限に対応した教育到達レベルを明確にしているか	4
	3-12	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4
	3-13	教育課程について外部の意見を反映しているか	4
	3-14	キャリア教育を実施しているか	4
	3-15	授業評価を実施しているか	4
	3-16	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4
	3-17	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
	3-18	資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4
	3-19	資格取得の指導体制はあるか	4
	3-20	資格要件を備えた教員を確保しているか	4
	3-21	教員の資質向上への取組を行っているか	4
	3-22	教員の組織体制を整備しているか	3

現状分析/総括

・各学生の個性に応じた「才能・技術・能力」を高められるように、少人数制の授業を採用しており、業界のニーズに応えられる人材育成を目指した教育を実践している。
・シラバスを導入し、各授業の到達目標を明記し、教育達成レベルを明確にして授業運営を行っている。
・１年次１0月に「Job Discovery」、2年次4月には「合同企業説明会」「ミュージック＆ワーク」を対面形式で開催し、学生のキャリア養成に取り組んだ。
・「ビジネス文書検定３級」「コミュニケーション検定初級」の他にも、「舞台機構調整技能士」などスタッフ技術に特化した複数の検定にも対応している。また、対策講座等を追加で設けたり、資格試験を本校で受験できるように認可を受けたりするなど、学生の資格取得率向上に向けて取り組んでいる。
【資格取得試験前年度実施分】
映像音響処理技術者資格認定試験/サウンドレコーディング技術認定試験/舞台機構調整技能士3級・2級/ProTools技術認定試験/MIDI検定/照明技術者技能認定試験2級/CADアドミニストレーター"Primary"認定試験/足場の組立て等作業従事者特別教育/フルハーネス型墜落制止用器具取扱特別教育/コンピュータサービス技能評価試験 ワープロ部門・表計算部門/Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード/Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード/ビジネス文書技能検定試験3級/第二種電気工事士試験/コミュニケーション検定初級など。
・また音楽芸能スタッフ科が中心となり参加する、外部イベント研修に向けた現場での安全取り扱いに関する「安全講習」と2024年2月1日より義務化された「テールゲートリフター」の特別教育も適切に実施している。
・年に2回、授業アンケートを実施し、要望があった授業に対しては、講師に内容をフィードバックし授業の質の向上につなげている。
昨今の音楽的流行の変化に伴ったカリキュラムの刷新も、講師、教務が協議し適宜行っている。
・成績評価においては、年度初めのガイダンスで学生に説明の上、シラバスにも評価基準を明記し、各基準に沿った運営をしている。
修了認定基準においては、学則に記載し学生告知もしている。
・長期休暇前には期間ごとに蓄積された知識技術の成果発表イベントや特別セミナーを実施し、教職員を含めた関係者が成果を確認できる環境を構築している。
・例年、新年度開始前に各学科において全体講師会を実施し、授業内容の確認や指導項目のチェックなどを実施している。
また、長期休暇中にもカリキュラムミーティング等を行い、情報共有することで授業の質にばらつきが出ないように取り組んでいる。
・より充実した学校生活をおくれるよう、部活動（軽音部、ダンス部、演劇部、カメラ部）や課外活動（ボカロ部、各種交流イベント）にも前向きに取り組んでいる。
・部活動に関して、2024年5月より学生ニーズに合わせた「ライブ部」を導入し、音楽学校としての活性化を図っている。

課題/目標/その他

・授業アンケートにおいては、前期末と後期末の年2回に加え、6月にも実施し、その結果の授業への反映方法も確立させ、授業の質の向上につなげていく。
・授業アンケートの回収率改善に取り組み、アンケートの精度アップにつなげていく
・教務と学生支援課のさらなる連携強化を行い、キャリア教育の質の向上に取り組む。
・新規講師向けの実践的な研修と、講師全体のスキルアップのための勉強会などの仕組みづくりを行い、教員の質の向上に取り組む。
・音楽業界全般に見られる「個の力の成長、拡大」に合わせて、SNS等の利用におけるセルフマネジメント教育の拡充を目指す。
・学内イベントについては開催の意図を学生にも周知し、費用対効果の視点を持ちつつ学生の成長の場としての拡充を目指す。
・テスト期間での欠点者を対象とする補講授業に加え、長期休暇期間を利用した補修期間を設け授業習得度の改善が必要な学生のフォローアップを行う。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】SNSの使い方・アカウントの使い方などを教育しているのか？
⇒【回答/学校】SNSのトラブルも多いので適切な使い方を指導している。将来学生の収益にもつながるツールであるため、企業を招聘し業界の声を伝えることも含めて指導している。
・【意見/評価委員】自身が自営業を~~やりだして~~始め思ったことだが、音楽の専門学校でも会社の立ち上げ方や経営に関する授業があったらよかったと思う。
・【質問/評価委員】教員の高齢化によるセカンドキャリアなどがあるのか。
⇒【回答/学校】高齢の講師は直接の指導ではなく、自身の知識や経験を生かしてカリキュラム・テキスト作成などで協力してもらっている。
また、AIの授業導入に関する権利問題などに関する取り纏めをしてもらっている。
⇒【回答/学校】対面授業ではなく、オンライン授業の対応をしてもらっている。
⇒【回答/学校】知識・経験が豊富なので、オンライン授業をアーカイブ化していくことや、補習・補講の対応をお願いするなど考えていきたい。

大項目	点検・評価項目	自己評価
学修成果	4-23　就職率の向上が図られているか	4
	4-24　退学率の低減が図られているか	4
	4-25　資格取得率の向上が図られているか	4
	4-26　卒業生の社会的評価を把握しているか	3

現状分析/総括

・開校当初よりキャリアサポートセクションを設け、組織的な学生指導体制を築いており、教務担任と連携を図りながら、学生一人ひとりの状況を常に把握し、個別指導を行うことで、学園生活の充実と就職率の向上に取り組んでいる。
【2024年度　就職関連データ】
就職希望者数 155名　　就職率89.0%（前年より1.5%減）
・現在の多様なエンタテインメントの活動に対応するため、メジャーのみならず幅広いジャンルや企業と学生をつなげるようなオーディション等の紹介や開催を実施できた。
また、音楽活動を行う学生同士をつなげるため、マッチングプロジェクトを設け、掲示板等で告知し、対面でメンバーを探せるイベントを開催した。
【2024年度　デビュー関連データ】
オーディション件数　2024年度 64件 (昨年度より10件減)
所属契約件数　6名
・キャリアサポートセクションには資格取得を支援する担当者を配置しており、対策授業の実施、団体受験申し込み等を行なっている。
また、合格率、合格実績も管理しており、取得対策や合格率の推移分析に活用している。
・2024年度の退学者数を前年度に比べ3.3%削減できた。
【2024年度　進級/卒業率】
2年　卒業率　94.4%（前年比1%増）　　1年　進級率　88.2%（前年比4.6%増）※昼夜間部合計
・業界で活躍する卒業生（アーティスト・スタッフとも）とは、コンサートの協賛やバックアップ、ゲスト講師としての招聘など、様々な形で連携を深められた。

課題/目標/その他

・学生に対する資格試験の周知と、資格取得に対する啓蒙活動をさらに強化していきたい。
・2025年度より、学生に対しても自身の出席率をSMSを通して通知することにしており、自身で出席率管理を行える体制を整え、進級率・卒業率の向上につなげていきたい。
・退学者削減においては継続的な課題となっており、今年度は卒業/進級率90%以上を目指す。
また、教務の取り組みのみに頼ることなく、組織としてフォローが出来るシステム作りに努めていく。
・卒業生の社会的評価の追跡については、現状、各企業との直接のやり取りをとおして情報を得たり求人情報更新時に在職確認を行ったりするにとどまっており、全卒業生の把握はまだ困難である。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】所属契約/オーディションは何人ぐらいの学生が希望するのか？
⇒【回答/学校】音楽アーティスト科・声優芸能科の学生の約半数が希望している。
・【質問/評価委員】在学中に契約できなかった学生は就職を希望するのか？
⇒【回答/学校】在校中に受講したセルフマネジメントで身に付けたノウハウを活かし、卒業後も本校のバックアップを受けながら、各自音楽活動などを継続している。
・【質問/評価委員】資格取得について積極性がなくなっているという話だが、高校生の段階で軽音部顧問として何かやるべきことはあるのか？
⇒【回答/学校】デビューを目指さない学生にもどのようにして音楽を続けていくのかを考えてほしい。
⇒【回答/学校】部活動は楽しむものだと思っている。特に具体的な要望は無く、基本的には音楽を楽しんで続けてほしい。
⇒【回答/学校】就職支援サイトの幸福度調査では、就職するときの条件として収入面より、夢や希望・楽しくできる仕事をしたいという結果が上回っている。学生が本当にやりたいことが何なのかを導いてあげることが専門学校としての仕事だと考えている。

大項目	点検・評価項目		自己評価
学生支援	5-27	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
	5-28	学生相談に関する体制を整備しているか	4
	5-29	留学生に対する相談体制を整備しているか	4
	5-30	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
	5-31	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
	5-32	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4
	5-33	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
	5-34	保護者との連携体制を構築しているか	4
	5-35	卒業生への支援体制を整備しているか	3

現状分析/総括

・就職支援のキャリアサポートセクション、デビュー支援のデビューサポートセクションを設置しており、専任のスタッフが就職・デビュー情報を収集し、校内掲示やグループツールウェアでの通知などにより、学生に情報提供している。また、姉妹校（東京校・福岡校）のオーディション情報も共有しており、幅広い情報を提供できる環境を整えている。
・求人票管理システムは2025年度よりリニューアルされ、イーエスピー学園の求人情報が集約されている。
・オーディション情報は前年より１割弱減少だが、求人数は1割程増加となり、2024年度の内定率は89%となった。
・2024年度よりリ学生支援室がリニューアルされ、学生の自習スペースの確保、学生支援課による年間400名近い学生面談や、教務による学生面談・　奨学金相談等にも活用している。
・学科内で担任制度をとっており、遅刻や無断欠席の増加といった問題行動が見受けられた場合には、速やかに電話連絡等を行い、個別に問題解決に向けた取り組みを実践している。
・学生相談に関しては、担任が常時学生相談を受け付けているほか、定期的に個別面談を実施し、問題が表面化する前に取り組める体制も整えている。
・インターナショナル・コミュニティ・センターを設置し、専任のスタッフが留学生対応する体制を整備している。また、留学生に向けた学校独自の奨学金制度を用意し、留学生を経済的に支援できる体制を整えている。
在籍管理を適正に行っていた結果、2024年度も大阪入国管理局より「適正校認定で、問題在籍者が発生しない期間が3年継続した」ことから、「適正校(在籍管理優良校」の認定を受けている。
・高等教育の修学支援制度、従来の学生支援機構の奨学金制度、提携の教育ローンなどにも対応し、学生の経済的側面を幅広く支援している。また、学校独自の学費の分納制度を用意するなど、独自の支援も行っている。
・2024年度募集より、イーエスピー学園4校合同による特待生奨学金制度という、学校独自の奨学金制度をスタートさせ、新たな支援体制作りに取り組んでいる。
・毎年４月に健康診断を実施し、全学生の健康管理を行っている。
・遠隔地から就学する学生に向けては、学生寮、学生マンション運営企業と業務提携して、住まいの情報の提供に努めている。
・企業研修、就職活動、学校が提携するライブ研修、音楽活動（演奏活動）等、学校が認めた課外活動においては、公欠制度を適用して支援を行っている。
また、公欠制度に関してはルールを設定し、企業へ理解を求め、学生にとって学びの障害にならないように配慮している。
・隔月で保護者等向けに郵送していた「エンタ通信」を、保護者等が確認しやすいよう、SMSを使用した配信に切り替えて学校情報を提供しており、保護者等からの評価も概ね好評となっている。
・2024年度より、保護者等に月に1回SMSを通じて学生の出席率を伝えており、日頃の出席状況の共有をしている。
また、各学期終了後には成績表と出席状況を郵送し、学生の状況を伝える体制を整えている。
・長欠等の問題がある学生においては、保護者等にも電話等で連絡を入れ、家庭と共に問題解決に向けた取り組みを実践している。
・スタジオレンタル及び奨学金面談の予約システムを構築し、より学生が利用しやすい環境整備に取り組んでいる。

課題/目標/その他

・音楽、芸能活動においては、デビューだけにとらわれず、現在の多様な音楽活動の有り様に対応した、多方面にわたる音楽活動支援に取り組めるよう、活動促進課外授業等を開催し、時代に沿った学生支援の実践を引き続き目指す。
また就職希望者対象者には就職意欲を促進させる取り組みを行うとともに、応募書類作成講座等を開催し、就職活動者・内定率の向上を図る。
・教務スタッフの学生支援対応力の強化に取り組み、各コースでの退学者数削減及び学生満足度の向上につなげていく。
・留学生に関しては、教育だけでなく、日本の習慣・常識・法律解釈など、日常生活に関するアドバイスや相談対応もしているため、組織的・人的拡充が必要となる可能性がある。引き続き安心して生活、就学できる環境づくりに取り組む。
・修学支援・奨学金の対応に関しては、安定した健全な対応ができるよう、組織的なバックアップ体制を強化していく。
・イーエスピー学園独自の特待生奨学金制度を継続して実施し、さらなる拡充を目指す。
・昨今増加の傾向にある身体的及び精神的な体調不良者のケアに関して、組織的な取り組みをさらに充実させる必要性を感じるため、医師等との連携等、メンタルケアに関する取り組みを検討していく。
・卒業生に向けては、卒業後のキャリア形成支援として、キャリアサポート及びデビューサポートを継続して受けられる体制をとっている。
ただし、卒業生の社会的評価の追跡も含めて、さらなる仕組みの構築が必要である。

委員からの意見・質問

・【意見/評価委員】就職してもすぐに退職してしまい、他職種に流れて行ってしまう。今の時代のシステムを活用して同業種で自身にマッチした企業を見つけてほしい。
・【意見/評価委員】ケーススタディをアーカイブしてみてはどうか？職員・講師・卒業生の経歴や経験における成功事例をアーカイブ化することで、学生の指針の一つとなると感じる。

大項目	点検・評価項目		自己評価
教育環境	6-36	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
	6-37	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4
	6-38	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3
	6-39	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

現状分析/総括

・施設、設備に関しては、中長期計画(10年プラン)に基づいて保守、メンテナンスを行い、学生が満足できる教育環境を提供している。
・2024年度は校内ホールのモニタースピーカー入替や、職員・スタッフ・学生が使用する210台のWindwsPCの入替を行い、学内ネットワーク環境の全体の整備を実施した。
・安全確認として、職員による建物の定期巡回を実施し、故障・破損などによる危険個所の早期発見・早期改修に努めている。
・学外実習については、業界各社の動向を把握しながら、各学科の目的に沿った内容で、特別活動（ライブハウス実習、舞台演技実習、アコースティックピアノレコーディング実習等）を実施している。
・「超現場主義」を標榜し、年間約50箇所を超える大規模な音楽フェスティバルやメジャーアーティストのコンサート等へ、学生をインターンシップとして参加させている。2024年は多くのイベント研修を行った。(56件の現場、130日/938名)
・学生生活の充実を図る為、部活動を実施している。（「軽音部/部員数50名」「ダンス部/部員数39名」「写真部/部員数10名」「演劇部/部員数20名」「ボカロ部/部員数30名」「ライブハウス部/部員数10名」）
・学生の安全、損害賠償に対応するために各種保険に加入している。(学生生徒災害傷害保険・感染予防費用補償特約・インターンシップ活動賠償責任保険・学校賠償責任保険・個人情報漏洩保険・サイバーリスク保険)
・2023年度はコロナによる規制緩和に伴い、姉妹校である「ミュージシャンズ・インスティテュート・ハリウッド」への海外研修を実施したが、2024年度は最低遂行人数に満たなかったため開催には至らなかった。
また、韓国研修は昨年度に続き実施し、SM Entertainmentが運営するSM UNIVERSEにて本場K-POPのレッスンが受けられた。
・学校防災計画及び学校災害対策規定をマニュアルとして設けており、火災震災に備えた「災害避難訓練」を全学生、職員にて毎年実施している。
・避難場所への誘導、避難者の点呼、防災対策、安否報告、学生自身による消火器訓練、職員による屋内消火栓訓練等の実践的な訓練を通じて災害に備えている。
・海外研修においては、今年度も募集実施を予定している。

課題/目標/その他

・開校20年を迎えようとしている現在、建物・設備の老朽化による入替や時代にあった新しい校具・教具を導入する必要性が高まっているため、 重要度や費用を鑑み、教務と連動のうえ 優先順位を明確に定めた計画を進める。
・防災に関しては、職員、講師、学生への定期的な周知が必要と感じている。
年1回の避難訓練以外にも動画等により講師・学生が避難時の行動について確認できる環境を整え、防災に向けた啓蒙活動を行うように努める。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】教育環境の改善で具体的な施策をするにあたって、学生の声やニーズが大事になってくると思うが、検証・確認はどのようにしているのか？
⇒【回答/学校】学生からの意見を積極的に吸い上げているわけではなく、現場で見聞きした機材やよく使用されている機材を導入している。最新鋭の機材を導入したところで、現場で使われていなければ意味がないと考えている。
⇒【回答/学校】流行している音楽を調べ、学生にどのような需要があるのかを日々情報収集すると同時に、講師も最近の流行りを理解し柔軟に対応するよう心がけている。
・【質問/評価委員】教育環境は学校側が完璧に整えてあげるべきなのか？授業のうち一部でもある程度自主性を重視した授業カリキュラムを取り入れた方がよいのでは？
⇒【回答/学校】学生によって業界に対するモチベーションの差があり、全員の興味関心に沿った環境を作ることが出来れば理想的だが、モチベーションが低い学生も救い上げるには、学校としてある程度環境を整える必要があると感じる。
⇒【回答/学校】学生の興味関心については視野が狭いと感じており、より幅広い視野を持ち掘り下げていくように、指導する必要性を感じる。
・【意見/評価委員】AIが活用されていくなかアーティストが育てなければならないのは、唯一無二の「人間性」だと思われる。それを指導する場やカリキュラムがあると良いと感じる。
・【質問/評価委員】避難訓練の際に消火器の使用方法など実践的な体験ができたらよいのでは?
⇒【回答/学校】学生・講師・スタッフを対象として隣接した野外広場にて消火器を使った訓練を実施している。また安全性を担保しつつ迅速な避難移動や→集合場所にての点呼が出来ているか等の確認、自主点検を行っている。2025年度は消防局を招き指導を受ける予定である。

大項目	点検・評価項目		自己評価
学生の募集	7-40	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4
	7-41	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4
	7-42	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
	7-43	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
	7-44	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4
	7-45	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4

現状分析/総括

・2024年度は、年間28回のオープンキャンパス、体験授業を開催し、入学希望者や保護者等に対して、学科別カリキュラム、学納金、就職・デビュー状況、学校生活全般についての説明している。
また、体験授業においては、参加者や保護者等に対して別途個別相談ブースを設けて、より具体的な対応ができる環境を整えている。
・個別学校説明会、平日学校見学会にて、個別状況に応じたアドバイス・対応を専門の職員が実施している。
・体験授業、個別学校説明会等において、オンライン形式等、幅広いニーズに合わせた対応をしている。
・来校が困難な地方都市にて年間2回、出張説明会を実施した。
また、交通費補助のため交通費サポートチケットを配布し、来校負担の軽減に取り組んだ。
・大阪府の定めた運用基準に沿って、入学選考を適切に実施している。
・募集要項においては、学納金に関し学科・コース う運営のための必要経費から算定した適正な金額を明確に提示している。
・入学辞退者に対しては、納めた学納金を適正に返還している。

と受け入れ	・高等教育の修学支援制度の対象機関として、適正な対応をしている。入学者が給付型奨学金対象者の場合、採用決定通知等の証明書類の提出を条件に入学前の学費納入を相殺方式とし、入学者の経済的な負担軽減に努めている。 ・軽音連盟大阪様との取り組みで全国軽音フェスティバルやHSL in ESPを開催して、高校生に対する本校の認知度を上げる。 ・口コミの重要度を認識しており、学生対応はもちろん出身アーティストやスタッフとより良い関係性を築くために、コラボ企画や来校等に注力している。
	課題/目標/その他
	・費用対効果を考えながらも、常に新しいことにチャレンジする体制づくりを行う。 ・体験授業・個別説明会・平日見学会の参加者より集めたアンケート内容を分析し、より適切な学生募集活動につなげられるよう、有益な情報活用の確立を目指す。 ・SNSでの情報を積極的に発信して、本校の認知度アップを目指す。
	委員からの意見・質問
	・【意見/評価委員】専門学校の口コミが入学に対して非常に大きな影響を与えていることがデータに出ており、口コミを大切にする姿勢に関心した。

大項目	点検・評価項目		自己評価
財務	8-46	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
	8-47	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4
	8-48	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
	8-49	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4
	8-50	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4
	8-51	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4

現状分析/総括

・2025年度の入学者、進級者共に前年より増加、進級率は前年より約5%改善し安定的に在籍者数を確保できている。
・学校法人全体で見ても、入学者数が前年より増加しており、健全な状態にあるといえる。
・施設、設備の経年劣化による修復、補修等が増加しているが、中長期計画(10年プラン)をベースに教育環境を継続して整えている。
・財務情報については、学校法人イーエスピー学園サイトで公開している。

課題/目標/その他

・教育活動の充実を維持継続するためには少子化という避けては通れない外部要因にも左右されない財務基盤の充実と強化が必要となる為、引続き入学者の一定数確保、進級者の適正数確保を図り、財務基盤を整える。 ・
2026度入学者より学費を昼間部は1人あたり6万円、夜間部は1人あたり3万円値上げし、より充実した教育環境の整備、建物設備の老朽化対策、 防災管理体制の整備、近年の光熱費をはじめとする物価高騰への対応を行う。
・当該年度の経費予算をベースに予実績管理を徹底し経費の適正使用・無駄の削減に努め事業計画との整合性を図る。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】可能な範囲でお聞きしたいのだが利益率はどのぐらいなのか？
⇒【回答/学校】平均的な専門学校の利益率と比較して数パーセント高く、収支ラインの目安として総在籍数700名の確保を各部署の共通目標としている。大阪校においては2024年度、収入・支出・利益のすべてにおいて目標を達成した。
今後10年～15年の大規模修繕を含めた経費を割出し、予算を確保するための中長期利益目標も設定している。

大項目	点検・評価項目		自己評価
法令等の遵守	9-52	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4
	9-53	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
	9-54	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4
	9-55	自己評価結果を公表しているか	4
	9-56	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
	9-57	学校関係者評価結果を公表しているか	4
	9-58	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4

現状分析/総括

・各種法令、施行規則、設置基準を満たしており、常時変更に対応できる体制を整えている。
・個人情報の保護に関する法律に則して個人情報保護規程を整備し、適切に運用しており、管理システムは通常のインターネットからは隔離したネットワークを構築し、外部からのアクセス等に備えた危機管理を行っている。
・学則に関する変更が生じた際には、速やかに大阪府へ届出を行い、常に最新の学則をベースとして運用している。
・2024年度も大阪府から各種通達事項があったが、指導要綱に準じ適正な対応・報告を行った。
・自己評価委員会を設置し、自己点検の位置づけ、目的、方針を確認し、自己点検・自己評価を実施している。
また、自己評価結果は本校ホームページで公開している。
・学校が選任する学校関係者によって、自己評価の結果を評価する「学校関係者評価」の実施し、評価結果を本校ホームページで公開している。

課題/目標/その他

・各種法令に関しては、教育・周知活動を徹底し、全職員が同水準の理解度で業務にあたれるよう継続して取り組む。
・ガイドラインを参照するとともに重点目標や評価項目に照らし、学校関係者評価委員を選任し、「自己評価結果や結果を踏まえた改善方策」「重点目標や評価項目」「改善に向けた実際の取組」等の評価を受け、来期の重点目標や改善施策につなげていく。
・修学支援新制度に関しては専任職員を配置するとともに、学籍担当者、学費請求担当者、教務担当者との連携を強化することにより、厳密な運営を行っている。

委員からの意見・質問

・【質問/評価委員】修学支援新制度機関校の状況は？
⇒【回答/学校】大学で約95%、専門学校で約80%の学校が対象機関に指定されている。イーエスピー学園はグループ4校全てが対象機関校となっており大阪校においては約4人に1人がこの制度を利用している。新たに始まった多子世帯の対象者も増加しているため、専任担当者を中心に法令に準じ適正に対応していく。

大項目	点検・評価項目		自己評価
社会貢献 地域貢献	10-59	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
	10-60	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
	10-61	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

現状分析/総括

・大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会主催の全国大会「軽音フェスティバル」への協賛や、高等学校軽音楽部連盟大阪「High School Live」への施設提供などをとおして連盟加入校の部活動を支援するよう努めている。
・年2回本校主催の「High School JAM」というイベントを開催し、全高校生のエンターテインメント活動を応援している。2024年度は3回開催し、延べ102名の高校生が参加した。
・中津地域活動協議会主催の「中津万博2024」に参加し、音楽イベント運営やフォトスポットの設置、地域の魅力を伝えるパンフレットの制作参加など様々なコンテンツへ学生が係わった。
・「2年間お世話になった中津に恩返しをし、さらに盛り上げたい」というコンセプトのもと本校音楽芸能スタッフ科卒業制作として「ディプロマサーキット」というイベントを実施している。学生達が実行員会を設け近隣の会館やライブハウスまたは学内施設を会場とし、地域の活性化に努めた。今年は出演アーティストが93組、来場者が2日間で延べ900名と学生主催イベントとしては大規模なイベントとなった。
・2024年度より、韓国のTONWONG大学音楽学科の「サマープログラム」を受け入れ、3日間日本のエンターテインメント（歌や楽器、さらに音響など）の授業を開催して文化交流を行った。

課題/目標/その他

・High Scool JAMは歌や演奏以外にもダンスやアイドル活動など幅広い高校生の出演者を受け入れ全ての高校生のエンターテインメント活動を応援するイベントにしていきたい。
・ディプロマサーキットの更なる地域貢献として収益を協力施設にあてるだけではなく、災害非常備品の寄付や震災復興寄付などにあてるとともに、参加学生達が社会貢献の一環として本イベントを開催しているという自覚を持てる教育として行いたい。
・2023度より立ち上げた「青春エンタメ応援団」の「High School JAM」は軌道に乗ったが「部活動に出張レッスン」「軽音楽部限定の体験授業」「学園祭スタッフお手伝い!」などは思うようには進まない1年となったので、2025年度は掲げた目標すべてを実行に移すよう務める。